

【岩本論文へのコメント】

## 未来に希望を持って

山 科 満

本論文で岩本氏は、障害のある人と無い人が共生する社会の実現のためには、インクルーシブ教育の推進や職域における合理的配慮の義務化といった上からの改革だけでなく、実際の生活者に対する直接的なアプローチが必要であると主張する。現代の高度に発達した産業構造の中では、短期的な経済的合理性のために労働者が均質化するのではなく、人々が異質な他者に開かれていることこそ今後の産業発展のためには必要であり、現にボトムアップ的に産業界でそのような変化が生じつつあることを、産業組織論の文献検討に基づいて指摘している。

メンタライジングが発達障害のある人の自己理解に必須であることを岩本氏は従来から主張してきたが、本論文では、現代における産業領域の価値観の変化に呼応して、まずは経営者やリーダー層に対してメンタライジング研修を行うことが、共生社会の実現のために有効であろうと提案している。全ての人にメンタライジングを、というのが今回の論文における新しい主張であり、とりわけその主張を単なる理念としてではなく、経済的合理性があるということを一定の根拠をもって推論している点が画期的であるといえる。

氏は実証研究ではないことをもって本論文の限界と捉えているようであるが、筆者には本論文が提示した仮説の意義は大変重要であると感じられ

る。これを実証研究に持ち込むのが産業・組織論領域の心理学者の役割であろう。氏の推論のアナロジーとして筆者が思い浮かべたのは、Googleにおけるチームパフォーマンスを最大化する鍵はチーム構成員のpsychological safetyの感覚にあるという社内研究の結果である(Rozovsky, J., 2015)。両者に共通するのが、企業の業績向上のためには働く人の人間性回復が必要であるという、至極まっとうだが近現代の産業社会において捨て去られていったテーゼである。

本論文をもって岩本氏は自身の当事者研究に一つの区切りをつけるつもりのようなようである。氏の一連の研究成果が、本当の意味で日の目を見るのはまだ先のこともかもしれないが、筆者は、何時の日か、氏の主張を掘り起こしその先見性と当事者視点の正当性を評価する研究者が現れることを、強く願っている。氏のこれまでの歩みを労い深い感謝を表すとともに、今後の発展を期待するものである。

### 【文献】

Rozovsky, J.(2015):The five keys to a successful Google team. re: Work <https://rework.withgoogle.com/blog/five-keys-to-a-successful-google-team/> (2023年2月20日 最終確認)